

令和6年ホヤ類調査結果速報 No. 2

令和6年7月18日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

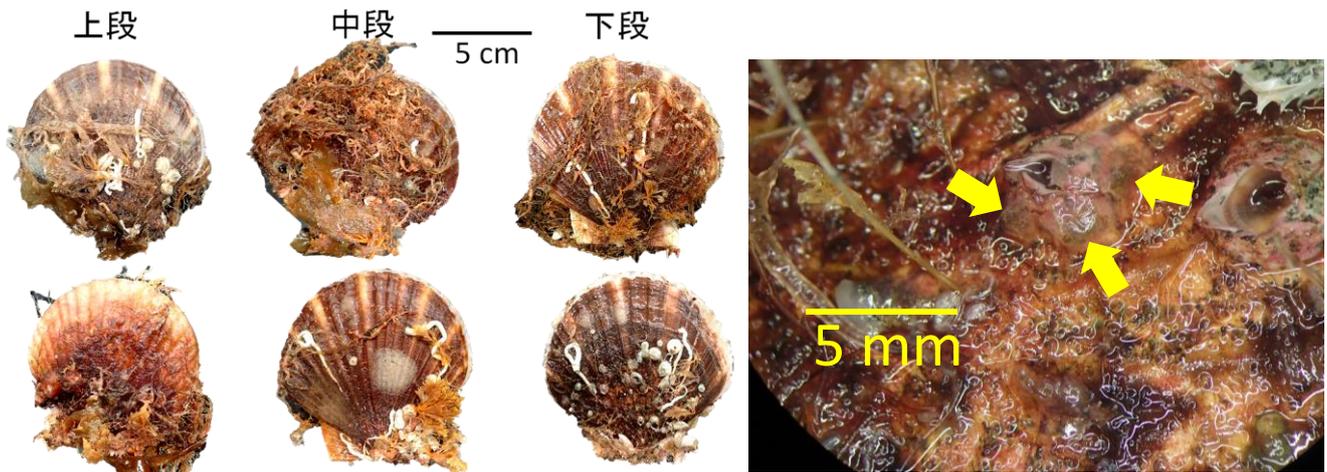
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

7月16日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着数はホタテガイ1枚あたり11.4個体で、直近4年間の中で最も多いです（表1、図3）。
- ヨーロッパザラボヤの平均サイズは1.9mmで、大半が肉眼で識別困難なサイズです（図1、図2）。
- 深度10mよりも浅いところでヨーロッパザラボヤの産卵開始水温（13℃）を超えていました（図4）。
- 7～8月は噴火湾でヨーロッパザラボヤの付着数が最も増加する時期です（図3）。この期間にどの程度個体数が増加するかが、その後の付着重量の増加に影響します。次回の調査結果を注視ください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和6年7月16日 八雲地区



外観ではヨーロッパザラボヤの付着が見られませんが、顕微鏡で拡大すると、フジツボ類やゴカイの棲管などの周辺に複数個体が密集して付着しているのが確認できます。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和6年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

1. 耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：7月16日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(図1)。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり11.4個体であり、この時期としてはR3年以降で最も付着が多くなっていました(表1、図3)。サイズ組成は5mm未満の新たに付着した個体が主体であり(図2)、平均サイズは1.9mmで肉眼では識別が困難な個体が大部分でした。産卵開始水温(13℃)を上回った深度層は、6月では深度20m以浅であったのに対して、7月では深度10m以浅と浅くなりました(図4)。今後、最も付着が多くなる7~8月にかけて個体数がどの程度まで増加するか、その後、8~9月にどの程度減少するか、注視していく必要があります。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：令和6年7月16日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	16.4g	9.1g	5.6g	10.4g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満
その他	16.3g	9.0g	5.5g	10.3g
ヨーロッパザラボヤ個体数	7.8個体	11.8個体	14.6個体	11.4個体
令和5年7月(R5.7.18)の個体数	2.4個体	7.2個体	2.8個体	4.1個体
令和4年7月(R4.7.20)の個体数	5.0個体	8.8個体	9.8個体	7.9個体
令和3年7月(R3.7.16)の個体数	1.0個体	5.6個体	7.4個体	2.7個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：令和6年6~7月)

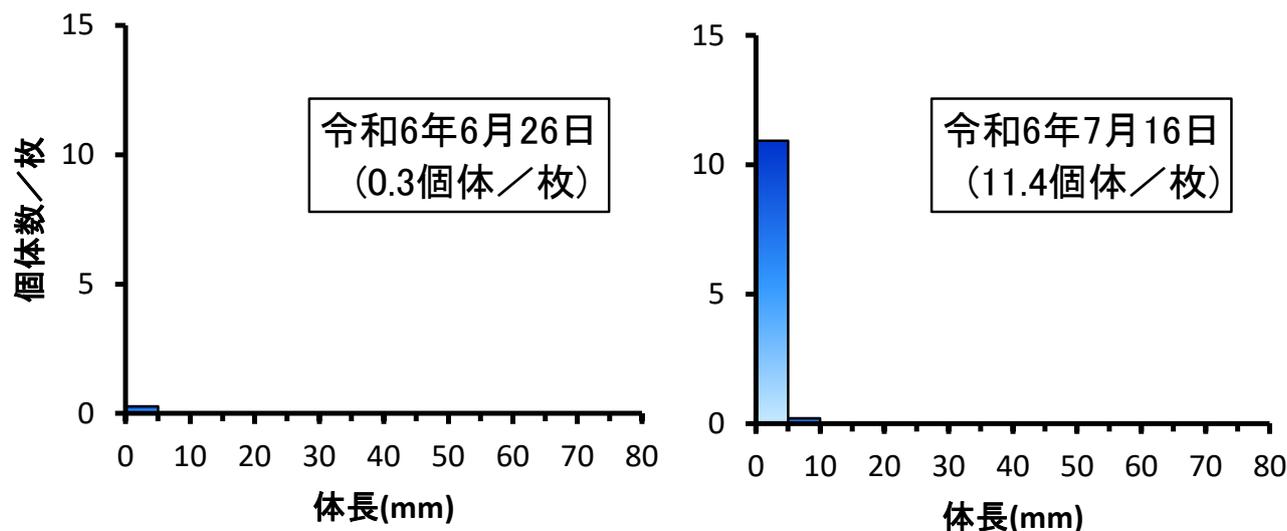
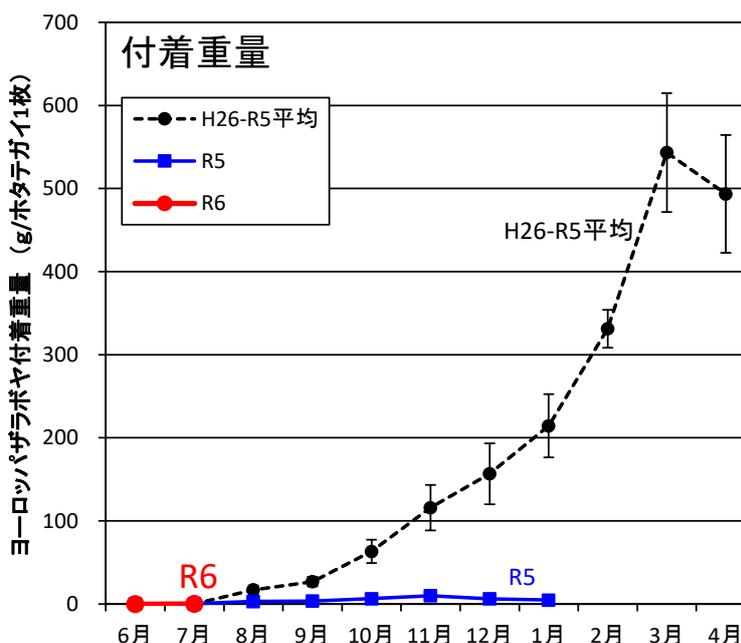
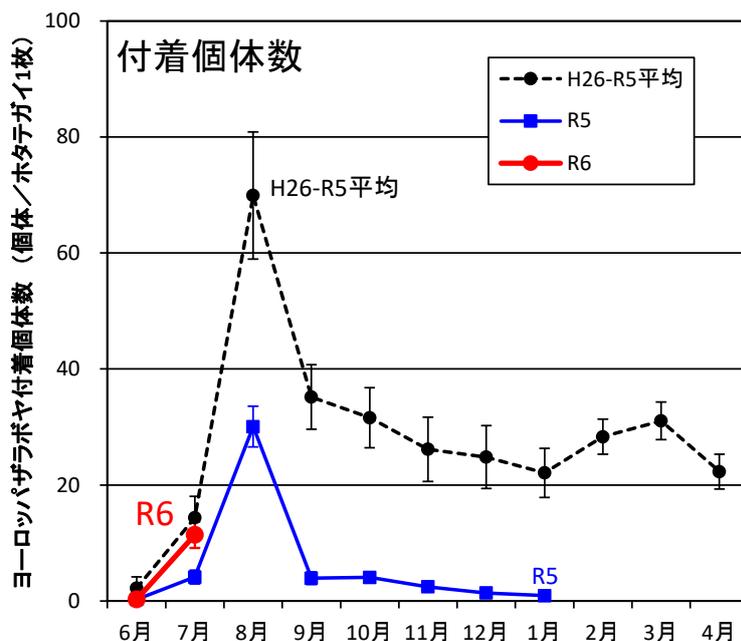


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）

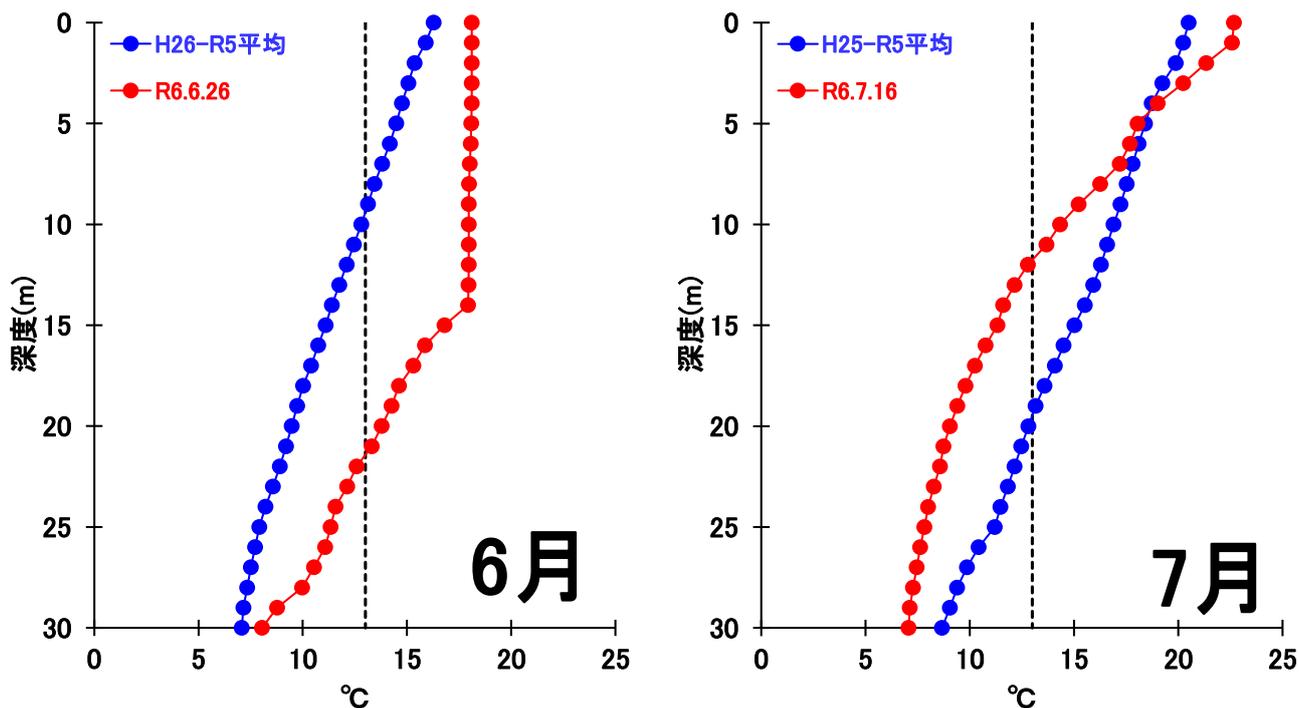


上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去10ヶ年（H25～R5年）のデータから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着数は7～8月に最も増加し、8～9月に大きく減少します。10月以降、個体数は緩やかに減少していきませんが、付着個体の成長に伴い、付着重量は急激に増加していきます。なお、H28年7月、11月、R1年4月は欠測。また、R2年から調査期間を6月～翌1月までとしています。

図4 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の令和6年6月および7月の水温鉛直分布



左：6月の水温鉛直分布、右：7月の水温鉛直分布

R6年（赤線）のヨーロッパザラボヤの産卵水温（13°C：破線）を超えた深度層は、6月が深度20 mよりも浅い層、7月が深度10 mよりも浅い層でした。平年（青線）のヨーロッパザラボヤの産卵水温を超える層は、6月が深度10 mよりも浅い層、7月が深度20 mよりも浅い層であることから、R6年6月では平年より広がったのに対して、R6年7月では反対に平年よりも狭くなったようです。

※H28年7月は欠測のため、7月のH26-R5平均はH28を除く水温で平均値を算出しています。